

平成30年度事業報告

1. 平成30年度、理事会及び評議員会の開催について

(1) 第91回理事会

- ・ 日 時 平成30年5月14日（月）午前10時30分～
- ・ 会 場 エムワイ貸会議室四谷三丁目
- ・ 議 案
第1号議案 役員人事について
第2号議案 平成29年度事業報告について
第3号議案 平成29年度決算について
第4号議案 定時評議員会の招集について
報告事項 固定資産と減価償却について
その他

上記4案が審議され、承認された。

(2) 第78回評議員会

- ・ 日 時 平成30年5月28日（月）午後3時30分～
- ・ 会 場 エムワイ貸会議室四谷三丁目
- ・ 議 案
第1号議案 平成29年度事業報告について
第2号議案 平成29年度決算について
第3号議案 役員人事について

上記3案が審議され、承認された。

(3) 第92回理事会

- ・ 日 時 平成30年11月20日（火）午前10時30分～
- ・ 会 場 こどもの国会議室
- ・ 議 案
報告事項
平成30年度上半期事業報告
天皇陛下御在位30年記念行事について
こどもの国の施設整備計画について
運営協議会の開催状況について
その他

(4) 第93回理事会

- ・ 日 時 平成31年3月25日(月) 午前10時30分～
- ・ 会 場 エムワイ貸会議室四谷三丁目
- ・ 議 案
 - 第1号議案 平成31年度事業計画(案)
 - 第2号議案 平成31年度予算(案)
 - 第3号議案 評議員会の招集について
 - 第4号議案 評議員選任解任委員会の開催について
- 報告事項 両陛下へのご説明等について
就業規則の一部変更について
役員の任期について
園内遊具における事故について
その他

上記4案が審議され、承認された。

2. 入園者の動向

(1) 年間入園者

平成30年度の有料入園者数の状況は、各月においては天候などの影響により前年比2万人に近い減となった月や入園者数が過去20年間で最高となった月があるなど大幅減、大幅増を繰り返し、目標とした90万人には届かなかったが、年間を通してみると過去5年間の平均入園者数を1万6千人上回る入園者となった。

また、具体的な年間有料入園者数については、873,740人と前年比で4,011人多く、過去20年間においては、3番目に多い入園者となっている。

(2) 半期ごとの状況

上半期をみると、4月は夏日もあり暖かな日が多く、平成24年以来の10万人を超える入園者であったが、6月からは記録的な猛暑や、台風被害による外周道路の閉鎖などの影響もあり、47万6千人と前年比6千人減となった。

下半期については、11月、12月は温暖な日が続き入園者は順調に推移したものの、2月に入りぐずつく天気が多くなり入園者は伸び悩んだ。

なお、3月に入ってから、過去最高の入園者数を記録した昨年には及ばないものの、桜の開花以降晴天に恵まれたこともあり、平成に入り3番目に多い8万1千人を記録するなど、下期としては、39万7千人（前年比1万人増）と過去20年間で2番目に多い入園者数を記録した。

3. 広報・PR活動の強化等

（1）広報・PR活動の強化

- ① 東急や小田急電鉄グループなど企業と連携する出張ワークショップとして駅構内やデパートなどに出向き、かざぐるまの工作を楽しんでもらうとともにPRパンフレット及びこども無料招待券をプレゼントする「出前こどもの国」を28回開催した。

また、新規出店場所として海老名市の「ビナウォーク」を加えたほか、世田谷区の「二子玉川ライズ」にも初出店を行った。

- ② 関係企業が行うイベントへの積極的なタイアップや、企業の福利厚生に「こども招待券」を活用してもらう等、相互にメリットのある関係構築に努めた。

また、12月には朝日新聞社との共催で、横浜F・マリノスによる「マリノスジュニアサッカースクールinこどもの国」を開催、その模様が多くのメディアに取り上げられる等、こどもの国の認知度を高めるイベントを実施した。

- ③ 近隣の新聞販売店と連携し、その顧客への折り込みを行うなど、広報強化に努めた。

（2）デジタルツールの強化

こどもの国のホームページの更新頻度を高め、内容の充実を図ったほか、スマホのツイッターを軸にしてSNSの投稿頻度を高め、タイムリーな情報発信に努めた。

（3）こどもの国ニュースの発行

広報紙「こどもの国ニュース」を、タブロイド版カラー4ページで印刷し、学校が夏休みの8月以外の毎月（年11回）発行した。

また、ニュースの紙面において、新たに「こどもの国を応援します」欄を設け、協力団体等の紹介にも努めているところである。

なお、各号については、4万7千～9千部を印刷し、うち3万7千部は、

教育委員会・教育事務所を通じて全国の小中学校に配布、図書館や官庁、マスコミ、企業などにも送付している。

4. 地域及び関係企業との連携強化

(1) 地域との交流の推進

- ① 近隣地域との交流を推進するため、夏休み及び冬休みにおける地元自治会主催の「親子の集い」行事の実施にあたり、園内のプール及びスケート場の無料開放を行った。
- ② 地元青葉区の広報紙「AOBA」において、こどもの国の告知枠が拡大されたことで、イベント情報のみならず、今月の見どころも紹介されることとなった。
- ③ 11月3日に青葉区役所で開催された「青葉区民まつり」に、こどもの国として、「かざぐるま工作のワークショップ」を出店したほか、こどもの国で採れた銀杏の販売を行った。
また、秋の青葉区民デーの一環として、12月2日に、昨年と同様、子どもたちの無料入園を実施した。
- ④ バス会社や警察、消防などの公的機関及び地域団体等との連携により、園内において「110番の日」や「防災フェア」のイベントを開催した。
また、パトカーや白バイ、消防車や路線バスなど、子どもたちの関心を引く車両の展示や交通安全教室、防災体験なども実施した。
- ⑤ 東急電鉄による「うし電車」の運行を実施。こどもの国線1編成を「うし模様」にフルラッピング、内装も牧場をイメージしたものとなった。
また、人気の東急電鉄ゆるキャラ「のるるん」が「うしのるるん」に変身、こどもの国牧場でPR活動した。平成30年10月11日～11月30日と平成31年2月12日～3月25日スタンプラリーを実施、長津田駅とこどもの国牛舎PR室にスタンプと台紙を置き、2つスタンプを集めた方には、もれなく「うしのるるん」グッズをプレゼントし、繁忙期の電車を利用しての来園にご協力頂いた。また、ゴールデンウィークに、「こどもの国線に乗ってタッチ」を実施、パスモやスイカなどICカードを利用した方がくじ引きに参加でき、参加者にはプレゼントを渡し、渋滞緩和の一助になった。
- ⑥ 日産自動車による「環境・自然キッズスクール」を10月27日に開催した。環境教育となる体験型イベントを3種類実施、会場は皇太子記念館及びその周辺で、約90人が参加した。

(2) 職場体験学習の生徒・学生の受け入れ

総合的学習・進路学習に寄与するため、地元の中学・高校が実施する職場体験学習の生徒を積極的に受け入れた。

また、地元小学校の生活活動の一環として、竹林整備や中央広場の花壇へのチューリップの植栽、散策路へ竹のチップ材敷均しを実施した。また、野外炊事場体験など、学年別にこどもの国を活用してもらった。

5. 主な事業

「こどもの国協会の解散及び事業の承継に関する法律」（昭和55年法律第19号）第1条第3項に掲げる事業として、既存施設・設備を引き続き運営するほか、次の事業を行った。

(1) 自然をコンセプトに来園促進

子どもたちに、自然に触れ、親しんでもらうため、野草を探して摘んでもらい、天ぷらで食べる「春をてんぷらで味わおう」をはじめ、椎茸菌を植える「シイタケを育てよう」、こどもの国唯一の夜のイベントの「セミの羽化とカラスウリの花かんさつ会」や「虫とりをしよう」、「セミの抜け殻調査」、「バッタを捕まえてみよう&飛ばし大会」、秋と冬には「虫さがしかんさつ会」や「冬越しの虫を見てみよう」、巣箱を外して野鳥が使用したかを観察する「巣箱はずし」、「冬の野鳥のかんさつ会」など、四季折々のイベントを実施した。

また、夏から秋かけての園内散策に役立つ「夏秋の花と紅葉ガイド」を新規に制作、年間通じでの園内案内ガイドが完成した。

なお、「かんさつ会」は自然ボランティアの協力により実施している。

(2) 自然と親しむ

- ① 「カブトムシの幼虫をさがそう」や「ザリガニ釣り大会」、「セミ取り名人」、多年生植物から糸を作る「カラムシの糸づくり」や「シュロの葉っぱでバッタづくり」など自然体験を通して、子どもたちの自然との触れ合いの機会を充実させた。
- ② 中高年の方が平日に自然の中を歩くノルディックウォーキングは、月1回のペースで継続して実施した。
- ③ こどもの国の自然を紹介する「ビジターセンター（土曜、日曜、祝日のみ開館）」において、こどもの国の生き物などの展示を充実し、より一層自然を感じてもらえるようにした。

また、ハビなどにエサを与えるところを観察する「エサの時間」を開始した。

(3) 自主イベントの安定開催と強化

桜と羊のフェスティバル（3月31日～4月8日）、こどものまち「ゆめゆめシティ」（12月2日）、梅まつり（平成31年2月16・17日、23・24日の土・日曜日）、ツバキまつり（平成31年3月16・17日）を実施した。

また、顧客満足度を高めるため、「七夕そうめん流し」や「野外でバームクーヘンをつくろう」、「マキでピザを焼こう」、ダッチオープン料理などの食に関するイベントを開催した。

(4) 教育関係団体等の協力を得て行う事業の実施

① こどもの国吹奏楽コンテスト・青空コンサート

第37回を迎える吹奏楽コンテストについて、東京都、神奈川県の小中学校から26校の吹奏楽部が参加し、10月21日に開催した。

また、吹奏楽コンテストに合わせて予定していた「秋の青空コンサート」も実施した。このほか、近隣の中学校の吹奏楽部が参加して中央広場で演奏を披露する「春の青空コンサート」についても、5月12日・13日に開催した。

② こどもの国サッカー大会

第37回となる大会を11月10・11日、17日の3日間で開催、東京都、神奈川県近隣6市から選抜された小学低学年から高学年までの各12チームが参加したほか、少女の部には6チームが参加した。

(5) 助成や協賛等による事業の実施

企業の助成を受けて実施するイベント

① 春まつり、秋まつり

朝日新聞社との共催により、春（5月3日～5日）と、秋（10月6～8日）の行楽シーズンに、子どもたちが楽しめる多彩なイベントを開催した。

② 牛乳まつり、牧場まつり

雪印メグミルク主催による牛乳まつり（5月27日）、雪印メグミルクの助成で開催する牧場まつり（11月3・4日）において、バターづくり教室など、牧場ならではのイベントを開催した。

③ ジャンボかるたとり、どんど焼き

テレビ朝日福祉文化事業団の助成で、正月行事のジャンボカルタとり大会（平成31年1月2・3日）と、どんど焼き（平成31年1月13日）を実施したほか、どんど焼きの終了後には、焼きたての焼き芋を、子どもたち300人に振る舞った。

④ サンマを炭火で食べる会

宮城県の女川漁港、気仙沼漁港からサンマ3,300匹を低価格で提供していただいた。また、天塩、コカ・コーライーストジャパン、サントリービバレッジ、伊藤園、ミツカンの協賛、東京燃料林産の協力により、9月23・24日の2日間に渡り開催した。

参加人数は2日間で計3,153人（応募人数は約4,400人）となった。

⑤ 神奈川県児童福祉施設駅伝大会、卒業生送別マラソン大会

資生堂社会福祉事業財団の一部助成により、11月17日に神奈川県内の児童福祉施設の子どもたちが参加する「児童福祉施設駅伝大会」及び「児童福祉施設女子駅伝大会」のほか、平成31年1月12日に神奈川県内の児童福祉施設の子どもたちや職員等が参加する「養護施設卒業生送別マラソン」を開催した。

⑥ こどもの国春・秋のフォトコンテスト

雪印メグミルク、資生堂、横浜エフエム放送、朝日新聞社、朝日新聞出版、ベルマーク教育助成財団が後援し、こどもの国の自然と家族をテーマに作品を募集、春は239点、秋は86点の応募があった。

秋は、フォトコンテストと合わせてキャノンマーケティングジャパンの協賛による写真教室も開催した。

(6) 既存事業内容の充実

① プールの運営状況

営業期間は、7月14日（土）～9月2日（日）の41日間で、有料入場者数は80,080人であった。

7月中旬以降は記録的な猛暑日が続き、外出を控える傾向であったが、入場者数は前年度比17,119人の増となった。

② スケートの運営状況

営業期間は、12月15日から平成31年2月24日の61日間で、有料入場者数は48,481人であった。

例年より、温かい日が続き、外出し易い気候ではあったものの、入場者数は前年度比8,234人の減となっている。

また、スケート事業においては、早朝スケート教室、学校団体スケー

ト教室などの開催により、子どもたちの学びの場を拡充し、教育、健全育成への寄与拡大を図っているところである。

(7) 自然の中での学習と遊びの場の提供

豊かな自然を活用した各種の催事・事業を進め、学校教育では得がたい学びの場、自然とのふれあいの場、遊びの場、親子の絆づくりの場を提供した。

また、みどりのボランティアの協力によりボランティア畑で各種農業体験イベントとして「家族でジャガイモ掘り」や「家族でサツマイモ掘り」、「枝豆の収穫」などを実施した。

「カブトムシの幼虫を育てよう」についても、同ボランティアの協力により、子どもたちが幼虫を掘って探し、オス・メスの判別を行った。

(8) 自然環境整備及びそれに付随した事業の実施

豊かな自然を維持するとともに、入園者の安全を確保するため、必要に応じ、樹木の剪定、危険木の伐採、植樹などを行った。

なお、平成30年9月に発生した台風24号により、当園も外周道路上に樹木が倒壊し、一か月以上、外周道路や散策路の一部の利用が中止になるなど、甚大な被害を受けた。

(9) センターとしての指導的役割

全国に設置されている「地方こどもの国」等の関係施設を対象にした情報交換等を行うこと等により、児童厚生施設の中核的施設としての役割を果たしていくための取り組みを行った。

6. 今後の運営について

(1) 報告結果に基づく取り組みの推進

平成29年4月に経営の安定に資するための報告書を取りまとめ、その報告結果を踏まえ、必要な取り組みを推進してきており、引き続き、経営の安定に努めていくこととしている。

(2) 運営協議会の開催

地域や利用者の意見を聴取する機関として平成30年2月に設置した運営協議会については、今年度は2回（7月と10月）開催し、自然環境の保護・

維持に関する取り組みなどについてご意見をいただき、いただいた提案の一部については平成31年度に予算化するなど必要な対応を図ったところである。

(3) 今後10年の年間整備計画の策定

平成30年度を初年度として、今後10年間を見据えた施設整備計画を策定し、これに基づき予定された工事を施工するとともに、次年度予算へ反映した。

7. 天皇陛下ご在位30年記念事業

ご在位30年を記念して平成31年1月8日からこどもの国のキャラクター「チッチ・ジュール」をデザインした記念入園券を発行した。また、2月22日に近隣の幼稚園児94名を招き「イチイ」の木（一対）の植樹式を行っている。

8. その他

平成23年3月11日の大震災以降、こどもの国は被災者に対し、入園料金、プール及びスケートの利用料金を無料としていたが、震災から7年が経過していることから、9月末で特例措置を終了している。

なお、被災者支援を行うNPO法人などの団体と連携した取り組みについては、可能な限り今後も協力していくこととしている。

以上